

◆【海員随想】B I S K R A 号航海記 (21) ① 新木繁雄

7 月 9 日 マラッカ海峡

2 号発電機の起動空気用電磁弁が固着し、開いたままで閉まらなくなった。コントロール室から起動信号を送ったら、起動エアータンクの圧力が見る見る下がり、ロープレッシャー・アラームが出た。そのとき私がちょうど側にいて状態を見ていたので、原因はすぐに分かった。同弁を開放し、スピンドルを磨いて取り付けたら良好に作動するようになった。

昨日延期した、主機ターボチャージャー水洗いを今日行った。前回から 15 日目だけど、フルで走った日数が少ないので、あまり汚れていないように見えた。

1 番ハッチ用ツインクレーンの内部点検。昨日床面をきれいにふき取りしたのに、また油が少し流れている。入念に点検したけど、どこから漏れているのか分からなかった。ワイヤーの緩み防止用ローラーが、またしても偏摩耗している。シンガポールから造船所へメールしてあるから、ヨーロッパで受け取り次第、取り換えよう。

機関長に、シンガポールで買わせたスクリュエエキストラクター（折れ込んだネジを取り出す道具）を出してもらい、クレーンフックの折れたグリース・ニップルを取り換えた。

7 月 10 日 インド洋へ

インド洋へ出たらしく、ときどき大きなピッチングが起きる。やはり夏のインド洋はモンスーンの季節だ。強い向かい風で、プロペラが重たい。燃料ばかりたくさん食う。主機 7 番シリンダーの排気温度が 450℃を超えた。この状態を長く続けると、予期せぬ初期障害が出てくる。少し回転を下げさせた。

昼少し前、燃料清浄機の不良アラーム。2/E と 3/E が 2 人で開放掃除をしていた。その後、3 時間ほど運転したが、また駄目になった。もう 1 度開放掃除のやり直し。その後は、どうにかよくなった。船体の動揺が大きいので、清浄機の通液量を増やすと、すぐ不良排出が起きる。

インド洋へ出た途端に気温が上がり、機関室は猛烈に暑い。それにワイパー（掃除夫）が掃除で機関室に水をまくものだから、湿気が高く、むんむんしている。

風が強く波が高いと、ワタリアホウドリ、オオミズナギドリ、クロアシアホウドリなどのミズナギドリの仲間が、羽の先端で水をなぐように飛ぶ。強風の中でもほとんど翼を振ることなく、風上へ向かって飛んでいく。不思議な能力を持っている鳥だ。

久しぶりに夕食にオデンを作った。内容はジャガイモ、ゆで卵、カンピョウで帯をした昆布、豆腐、それに牛肉たくさん。日本で仕入れた酒類がたくさんある。機関長、C/O も呼んできて飲んだ。

ラジオが朝から、アメリカの人工衛星スカイラブが南インド洋に落下すると報じている。